

## 丹原高校防災DAY ～学校へ泊まろうプロジェクト～

生徒が自主的・主体的に計画・運営、そして協働して実施。小中学生も参加し、地域に防災教育の輪を拡大。非常変災時の自助・共助に役立つ実践的知識・技術が身に付きました。

自衛官からロープの結び方を教わる中高生



### 体育館で1泊 避難所体験

西条・丹原高 訓練や講座 小中学生も

高校生が中心となり、地域防災への意識を高める取り組みが6、7の両日、西条市丹原町願連寺の丹原高校であった。地元の小中学生を招いた防災講座や、避難所を運営しての宿泊体験などで災害時の対応を確認した。

丹原高は、国の学校防災教育実践モデル地域研究事業の拠点校。訓練には全校生徒約340人と、丹原小、丹原東中の児童生徒計約140人が参加し、自衛隊や西消防署、市危機管理課も協力した。生徒の提案で、体育館に避難所を設けて1泊し、避難所の課題を見つける内容を取り入れた。高校生約50人が段ボールベッドや柔道の畳、学校にあるパーティションなどを並べて寝泊まりした。生徒のリーダー役を務めた高橋宗士朗さん(17)は「不安を感じながら寝泊まりする感覚が分かった。実際の運営では、避難者の不安を取り除く工夫が必要だと思った」と話していた。

避難用具の緩降機を使って地上へ避難する訓練では、校舎3、4階の窓から実際に降りた。

(高橋圭太)

地域防災 高校生が考える